

## 令和4年度 第2回白井市市民活動推進委員会（審査会）

1. 開催日時 令和4年5月24日（火）午後1時～4時55分
2. 開催場所 白井市役所 東庁舎1階 会議室101
3. 出席者 関口宏聡委員、出川真也委員、湯浅章吾委員  
長島悟委員、瀬口千恵子委員（名簿順）
4. 欠席者 大田茂子委員
5. 事務局 岡田市民環境経済部長、内藤課長、石田主査補、高橋主事
6. 傍聴者 1名
7. 議 事 (1) 補助金審査の流れ [非公開]  
(2) プレゼンテーション [公開]  
(3) 補助金審査 [非公開]

### 8. 会議概要

#### (1) 補助金審査の流れ[非公開]

(理由) 白井市情報公開条例第9条第1項第5号に該当するため。

#### (2) プレゼンテーション

○事務局 1番目は、ステップさんの学習支援事業について御発表をいただきます。本日の御出席は、●●さんお一人になります。

○●● 学習支援のステップ、会長の●●と申します。よろしくお願ひいたします。

まず、お配りしてあります資料について、3枚配らせていただきましたが、一つは私が口頭でお話をという公開プレゼンテーション資料というやつです。

あと二つは、一つは、生活クラブ千葉というところのホームページ、これ実は昨年度、この団体から寄附を20万円頂きまして、その方々が来場されて、どんな様子なのかということホームページに報告した内容でございます。

もう一つは、このまちサポというところから、この4月に取材に見えまして、それが5月15日号という形で記事になっているものでございます。

では、用意しました公開プレゼンテーション資料に沿ってお話ししたいと思います。審査項目が6点あるということで、それに沿った形で書きました。

まず、必要性に関してですが、日本社会全体の課題として、これ文科省が、数字は違っているのですが、平成26年、2014年です。ごめんなさい、2016になっていますが2014年です。このときに子供の将来のことを鑑みて、貧困が連鎖することがないようにということで、全国の基礎自治体に、補助金出すから事業をやりなさいという形で号令をかけたのがありまして。

白井市に関しては、その下に書きましたように、そこから2年後になるのですが、福祉課のほうからその該当する家庭に対して、もしそういう機会があったら活用しますかということでアンケートを取って。これ古い資料かもしれませんが、ほぼ8割の方から、数十名、そういう機会があったら利用したいという返事を得ているというのがございます。最近また取っているようですが、最近の資料は私、持っていませんので、申し訳ございません。古い資料ですが。

それで、もう一つは、周辺地区ではもう全て、白井以外は全部活動していると。唯一白井が残されているところで、今年10月から事業を始めるということで、やっぱり必要性、公益性についてはあるかなど。

次に、実現性、自立性ですが、5年間活動してまいりました。そのうちの3回ですか。この市のほうからいろいろ補助金を得ているものでございます。

自主財源ということで言いますと、実は半々なのですが、申請が20万というのは、大学生の講師に関してはお金を払っていますので。今のところ1人なのですが、もう一人ぐらい地元の人に来てくれればいいなということで、予算をその分ちょっと多めにというふうに言えると思いますが、計上しています。

三つ目の自発性、事業効果ということですが、我々ボランティア団体というのは任意の団体で、会費を払って会を運営しているというのがあります。あとは、市民から賛助会費という形で、年によって違いますが、90口ぐらい、9万円ぐらいお金が入ってくると。事業効果としては、何よりも遅ればせながら白井がこの10月から事業を始めるというところに、我々が5年間やってきた効果が表れていると。それを過度の話じゃないかというふうに思われるかもしれませんが、10月から始めるに当たっても、ちょっと事業規模が小さいんじゃないのかということの危惧と、あと行政側で一定の線を引かなくちゃいけないわけなのですが、その線から漏れてしまう子がいるわけなので、我々のやる意義は、まだ当分残っているんじゃないだろうか。

最終的には、我々の団体ステップというのは、行政のほうで引き継いでいただいて、我々の活動はいずれなくなるものと、それを望ましいというふうに思っているのですが、あと一、二年ぐらいは必要性が残っているんじゃないだろうかということで、実は本年度が補助金の申請の最終年度でございまして、申請したということでございます。

最後の年なので、その後はどうなるのかという話は当然あるわけなのですが、取りあえずこの1年間の活動を何とか補助金を頂いて軌道に乗せたいというふうに思っていますので、よろしく願いいたします。

以上でございます。

○委員長 どうもありがとうございました。

それでは、委員のほうから何個か質問させていただきますので、よろしく願いいたします。

それでは、委員の方、御自由に。

どうぞ、●●さん。

○●●委員 気づいたところからお聞きしたいのですが、この取組は、申請書のところにも書かれておりましたけれども、貧困だとか学習支援が本当に必要な子供たちに提供したいという、そういった趣旨だったかと思えます。私も個人的に教育学の分野で経験があるのは、そういった子供たちになかなか情報が行かなかつたり、学習の意欲の高い子は来るのだけれども、本当に必要としている学習意欲の低い子にそういった情報が届いたり、参加していただくということがなかなか難しいかと思えます。

この点は、1団体だけだとなかなか難しいかと思うところです。市との協働といったことも大事になってくる点じゃないかと思っているのですが、募集の件とかを含めて、何か工夫点とかあれば教えていただければと思います。

○●● 市の広報とか福祉のほうから、各家庭のほうに、こういう団体があるからどうですかということとか、あと今年度に関しては、教育長さんのところで各中学校に掲示してもいいよということで、各中学校に3月の末に掲示がされていると思います。ですから、そういう形でPRをやっていると。

あと、来ている受講生のほうなのですが、成績的に言うと中の下ぐらい、やっぱり学校の勉強だけではちょっと分からないところを何か聞きにくいとか、先に自分で勉強するというのはなかなかできないなど、そういう子が来ていると。かなりできるいい子というのは、いい悪いは別にして、我々のところにはあまり来ないような感じがいたします。そんなところです。

○委員長 ありがとうございます。

それでは、ほかの方、いかがでしょうか。

●●さん、どうぞ。

○●●委員 確認をさせていただきたいのですが、去年はエコロ福祉助成の寄附金を頂いているということだったのですけれども、それを今年は申請しないのかということが1点と。

もう一点は、先ほど学生の講師がお一人しかいなくて、資料を見ますと90回やるという形になっているのですけれども、実際、1人で90コマできることは可能なかどうか、その辺についてお答えいただきたいと思えます。

○●● エッコロの補助金は単年度ということで、今年度も継続して申請ができるのかどうか、そこは確かめていないのですが、単年度という形で、昨年度は。

その前の年は、千葉ニュータウンセンターというところの地元の企業ですね。開業何十周年ということで、白井市と印西市でそれぞれ一つの団体に15万円ずつ寄附しますよということで、白井からは我々が選ばれたということで。

実は今年、市のほうの補助金の最後のエントリーの年なのです。たまたま気がついて

よかったなど。もし今年を除くと、来年以降は市とかに出せないのです。というのがあります。あと、もう一つ何でしたっけ。

○●●委員 講師が1人で。

○●● 講師は、千葉大の学生さんが来てくれて、地元の方が来てくれるのですが。大学のほうの講義とかがありますから、年間フルに来ると90回以上なのですけれども、この日は駄目だとか。昨年度のことと言うと、それが8万幾らというのは、時給1,000円ですから、81時間ぐらい来たということだと思います。

今年は、もう一人ぐらい来てもいいのかなと。学生のアルバイトのあっせんという、仕事の提供ということを含めて、地元の学生さんが来てくれるとありがたいなということで、ちょっと多めに出しています。

フルに来れば、100回だとしたら、1回3時間ですから、100の3だから300時間、そうすると、それで30万になっちゃうのです。1人がフルに来れば。ですけれども、なかなかそこまでは。だから半分ぐらい、あるいはその3分の1ぐらいと。それで、もう一人ぐらいという形で、20万ぐらいは来てくれる人がいるといいなということで予算計上しています。

○●●委員 ありがとうございます。

○委員長 ありがとうございます。

○●●委員 関連質問。

○委員長 別の方、まずやってからでいいですか。

○●●委員 はい。

○委員長 どうです。

●●さん、どうぞ。

○●●委員 まだコロナの影響が少しあるのかなと思うのですけれども、市内全域から、たくさんというほどの人数は得られていないのかなというのがちょっとありまして。その辺り、どういう感じで。

○●● やはり地域性があって、地元の南山中学校の子がほとんどです。ただ、桜台は遠すぎて、たまたま1人通ってくる子がいたのですけれども、それ以外。あと白井ですから、16号の向こうからわざわざ来るとい子もないわけじゃないのです。あと七次台と大山口ですね。隣駅ですね。ですけれども、基本的には、地元の南山の子が七、八割ということでやっています。

○委員長 よろしいですか。

●●さん、何かありますか。よろしいですか。

○●●委員 前回、与えたもの、会議で議論したのですけれども。予算の中で、令和3年度は、交通費が8万1,000円であって、今年度の予算には、それが計上はどこに入っているのかなと思ひまして。大変大きい金額ですから。

交通費の明細というか、単位というか、それはどうなのかと。子供たちにも交通費を払っているのか。例えば、桜台から来るのだったら、バスか電車はお金がかかりますし。それか講師の方への交通費なのか。その辺を計上しているかどうか、その明細はどうかと。金額が大きいものですから、それは前回、議論で出ましたので。

○●● 昨年度の交通費がちょっと大きな金額になったのは、実は僕の大学の同級生が市川に住んでいまして、市川からバスに乗って矢切まで来て、北総線で来るというと、高いですね。それがあって、去年は、財的に多少余裕があるから、週1回来てもらったのですけれども、今年はおめんねと。お金がないから頼めないのだけれどもということで、今年も遠慮してもらっています。交通費というのはそういう形で、去年はその分でちょっと多かったです。

あと、受講生のほうの交通費は、我々は払っていません。講師だけです。あと、講師であり得るのが、地域のバスで通ってくる人がいると、1回往復で200円、400円になるのかな、まだ4月のこれを出すときには、そういう該当者がいなかったもので出していないのですが、バス代あるいは電車賃で少しは出てくるかなと。

ただ、去年のように、矢切から来るという人はいないので、そこまで大きな金額にはならないだろうと。そういうふうにしなないようにしていますということでございます。

○委員長 ありがとうございます。

そうしたらお時間になりましたので、以上とさせていただきます。どうもお忙しい中御参加いただきまして、ありがとうございます。

○事務局 2番目の団体ですが、介護・認知症の家族と歩む会・白井の世話人代表の●●さんと●●さんに御出席をいただいております。事業については、認知症本人と在宅介護の家族の笑顔の日常生活確保となっております。

○歩む会 介護・認知症の家族と歩む会です。よろしくお願ひします。私どもの活動は、認知症の御本人、それと介護家族が毎日にこやかに暮らせるということのお手伝いをさせていただいております。

メインテーマというより、一番ポイントを置いていますのは、皆さんに、認知症は病気です。どんな病気だというテーマと、認知症の介護があなたはできますか。

もう一つ、皆さんが知っている認知症の知識、情報は間違っていないか。こういうテーマでお話をさせていただいたりしています。

なぜそんなことになっているかということ、認知症は皆さん御存じかと思うのですけれども、その人の育ってきた環境、50年、60年が症状に出てきます。それを知らないと介護が非常に難しくなります。何をどうしてそんな行動に走ってしまうのだろうというようなことが、家族でも分からない。ほとんど分かっていない。それと、専門職の方も分から

ないということが最大の欠点だと思っています。

そのために私どもは、その人たちと懇談会、交流会、相談会、重ねています。そうすると、そこでどういう生活が積み重ねされてきたのかということが多少分かるということで、サポートする。

ここで今、サポートと簡単に言いましたけれども、サポートができないことを周りの人が助けると。基本が、できないことと言っているわけです。

私たちは、それでは駄目だと。できることを探して、そのことを家族、もしくは周りの人と一緒にやろうよということで今、一生懸命進めています。かなり成果が上がって、その人たちが何かを作ったり、どこかへ出掛けたり、一緒に我々と行動したり、お手伝いしていただいたりしています。

そうすると、家族の中でも和やかになる。それと、お友達ができて外へ出掛ける方も出てきている。今、私どもで92歳、認知症で7年目、その人が子供さんたち向けにいろいろな品物を作ってくれるのです。と同時に、88歳のおばあちゃんですけれども、我々を手伝っているうちに、毎週プールへ行くようになったりとかしている。

それから、これは認知症じゃないですけれども、男性で65歳、重度のうつ病だった方が、我々と接触して、そういう話をしている中に入ってきてくれる。今は、その人がボールでちっちゃいワンちゃんを作ってくれて、お年寄りだとかお子さんたちに配ってくれるのです。そのうちに、我々の手伝いをするために、早くから会場に来て準備を手伝ってくれています。

皆さんにこの場を借りてお願いしたいのですけれども、できないことを幾ら探しても、認知症の人は改善できません。どんなにサポートしてくれても意味がないです。できることを一つでも探してくれて、皆さんで手伝ってくれたら大きく変わります。それが私どものお手伝いのメインに今なっていますが。

非常に失礼な言い方ですけれども、御家族の方に、あなたは認知症の介護ができますか、質問をぶつけて、場合によっては訪問、ほかの方に知られたくないので自分のうちまで来てくれないかというようなことが毎週あります。それも何とか、コロナですけれども、やらせていただいています。白井でも、このところ頻繁にお電話を頂いたりしております。

以上です。ありがとうございました。

○委員長 よろしいですか。どうもありがとうございました。

それではこの後、委員から質問させていただきます。よろしくお願いいたします。

いかがでしょうか。

●●さんどうぞ。

○●●委員 確認したいのですが、今年の予算の計画書の中に、歳入の中に、歳入として講師料5,000円掛ける4と入っているのですけれども、これは歳入ではなくて、普通は歳出に入る項目なのかなという形で考えているのですが。この5,000円掛ける4という意味

を教えていただきたいということと。

もう一点は、白井以外でも活動なさっていると思うのですけれども、どの辺の地域で活動なさっているか。その2点について教えていただければありがたいと思います。

○歩む会 東葛地域全域です。それと、最近リモートで全国、お話をさせていただいております。

講師料5,000円掛ける4、それは歳入に入っています。地域包括支援センターさんとかそういうところと、もう一つは、傾聴ボランティアの団体さんなんかコーチに来てくれというお話を頂いています。明日も千葉県県民講座で私が講師をやらせていただきます。今年度になって、そういうところが少しずつ、今までの積み重ねで頂くことになってきました。よろしいでしょうか。

○●●委員 分かりました。ありがとうございます。

○委員長 ほかの方いかがでしょうか。

どうぞ、●●さん。

○●●委員 予算のほうと、昨年度のもの決算のほうにもあったのですけれども、DVDは配布というふうに書かれていたのですけれども、内容としては、どういったものの内容のDVDなのか。

○歩む会 先ほど申し上げた、あなたの知識は間違っていないかとか、それから今、特にレビー小体型認知症のことについて話してほしいということで、たくさんリクエストがありますので。なかなか参加できないという方のために、ビデオ撮りしてお配りをする。基本的に、今年度も200枚というつもりでしていますけれども。

○●●委員 そうしたら、ふだん講師でやられている内容をビデオに撮って、そのままDVDに落としてということですか。

○歩む会 いえ、結構リクエストが来るのです。これについて、例えばレビー小体の徘徊についてとか、暴力だとか暴言だとか、きっかけは何だろうという、ついてという。私が言っちゃうとおかしいのですけれども、私は去年の7月にレビー小体になっています。それで、平成19年に認知症に認定されています。それがここまで改善できましたよということで、あちらこちらから、お声掛けをいただいております。

○委員長 大丈夫ですか。ありがとうございます。ほかのお二人はいかがですか。

●●さん。

○●●委員 計画書の数字についてお聞かせください。大変意義深いことで、いいことだと思いますが、数字については初めてなので。事業収入で、講座参加費500円掛ける60人となっていますが、この60人というのは、1年間のトータルの人数ですか。

○歩む会 はい、そうです。

○●●委員 それで、この講座参加費の500円が会則には載っていないので、講座に参加する場合は500円とか、基準となる金額が会則には書いていないので。逆に、支援会員の

場合は年会費1,000円となっているので、これは昨年の計画書には計上されていないので、ゼロだったのか。その点。

それからあと、講座参加費60人、あるいは支出について、通信費、はがきと切手が300枚となっていますが、これは、300というのは名簿があるのか、何の300人なのか教えていただきたいと思ひまして。

○歩む会 名簿は、今までに参加された方が全部記録として残っています。それと、参加費の支援会費500円というのは、これは寄附という感覚だと思います。支援会費は1,000円です。トータル参加費というのは、通信費だとか資料だとか、私ども、いろいろな資料を配布しています。

○委員長 どうぞ。

○●●委員 今、配布しておりますというのは支出でありますから、収入であれば、講座に参加する収入は1回当たり500円ですというのを会則に載せておいたほうがいいんじゃないかというのが私の質問です。

○歩む会 それはちょっと検討しますけれども。今までにそういうことで。

○委員長 それは会の考え方にもよるので、そういったのもありますよということで。

●●さん、ありますか。

○●●委員 もう時間がありませんので短く話すのですけれども、先ほどDVDの話がありました。実際には、すごくいろいろなところに発信をしていくという会としての気持ちがあるということがすごく分かりましたので、DVD必要なのだろうなというふうにも思いつつも、せっかくお話ししたのをビデオで撮って編集して、発信するときに、DVDだけではなくて、今はウェブサイトのY o u T u b eとか様々な媒体があります。そちらのほうが、発信力が非常に強いのではないかというふうにも考えられます。ぜひ同じ予算で発信活動に取り組んでいくのであれば、そういった新しい媒体というものも検討されてもいいんじゃないかというふうにも受け取りました。

○歩む会 分かりました。検討させていただきます。F a c e b o o kにはいろいろな方が載せていただいています。

○●●委員 分かりました。ありがとうございます。

○委員長 それでは、お時間となりましたので、これで終了させていただきます。お忙しいところ、どうも御参加ありがとうございました。

○歩む会 ありがとうございました。

○事務局 それでは、3番目なのですけれども、しろいワクワクひろばさんの多世代交流型事業について発表がございます。本日の出席は、●●さんと●●さんです。2名になります。



○●● こんにちは。しろいワクワクひろばの●●と申します。多世代、多文化交流型子ども農園&子ども食堂について御説明させていただきます。

初めに、私たちの活動地域ですが、子ども農園については、白井第一小学校区内にある高齢者施設白井の家に近い場所にある畑で行っています。子ども食堂については、参加者同士の会食は少し控えて、障害者施設ぼけっとさんの調理室をお借りして作ったお弁当や社会福祉協議会さんから寄附していただいたお米やお菓子などの配布を行っています。

活動内容は、月1回、土日または祝日の午前11時頃から正午頃まで、畑で農作業を行い、その後、食材やお菓子、お弁当などを配布しております。対象は市内にお住まいのお子さんから高齢者の方まで、どなたでも御参加いただいております。

令和3年度は、感染予防対策をしながら、ほぼ月に1回活動を行いました。6月のジャガイモ掘りや9月、10月の落花生、サツマイモ掘り、12月の里芋掘り、芋煮会には、たくさんの方々の参加がありました。

昨年度の活動状況について撮影したものがございますので、御覧ください。こちらは、9月の落花生掘りの場面です。こちらは、昨年12月の里芋掘りの場面になります。こちらは、同じく12月の里芋掘り後の芋煮会の場面です。ライオンズクラブさんからクリスマスケーキの御寄附を頂きまして、障害者施設第2ぼけっとさんの部屋で皆でひととき楽しく過ごしました。こちらは、今年3月のジャガイモ掘りの場面です。

このような活動を始めたきっかけは、少子高齢化や核家族化などによる地域の様々な課題があると感じたからです。白井第一小学校区は在来地区ということで、3世代の同居世帯もありますが、一方で、外国籍の方を含めた若い子育て世帯や一人親家庭の方たちが、近くに親族や知人がいなくて地域から孤立しがちになって、育児の負担から虐待に至ってしまうような可能性もあります。

また、独り暮らしの御高齢者や高齢者御夫婦のみの世帯も増えてきていて、高齢者の方は心身の機能低下とともに家に閉じこもりがちとなり、孤独死や老老介護などの問題が起こってくる可能性があります。

私たちは、事業を通じて、地域で生活する様々な年代の人たち、様々な国の人たちがお互いに知り合い、交流を深めて、そのような問題を少しでも減らしていければと考えています。

私たちの事業は、そのための関わりのきっかけづくり、定期的で継続的な活動を通じた交流により、子供たちや若者の健やかな育ちを見守り、若い子育て世代を応援し、また高齢者の閉じこもり予防を図っていきたいと思っています。

地域の様々な人との関わりを通じて、子供たちには自信や意欲を、若いパパ、ママには一人で頑張りすぎないように子育ての孤立防止を、高齢者の方には、子供たちや若者との触れ合いで元気や生きがいを、そして、活動している会員のママたちは、若さと健康を保っていけるよう、今年度も事業を継続して実施していきたいと思います。

こちらは令和4年度の事業予定で、毎月1回の子ども農園と子ども食堂を実施していきます。4月と5月については、既に実施済みとなっています。

会員の構成と協力体制については、昨年度と同様に会員を中心として、地域の方々やボランティアさん、自治会、社会福祉協議会、障害者施設ぽけっとさん、市健康課など、たくさんの方々の御理解、御協力を得て楽しみながら実施していきたいと思えます。

私たちの事業は、白井市が目指している将来像「ときめきとみどりあふれる快活都市」を実現するための三つのプロジェクト、若い世代の定住プロジェクト、みどり活用プロジェクト、拠点創造プロジェクトの全部に該当するのではないかと考えます。

このような私たちの事業を継続して実施していくに当たり、お芋や野菜の苗代、食材の費用、農業用軽トラックの賃借料などに市民団体活動支援補助金を活用していきたいと思えますので、どうぞよろしく願いいたします。

以上です。

○委員長 もうちょっと時間ありますので。いいですか。何か一言。

○●● 大丈夫です。

○委員長 大丈夫ですか。ありがとうございました。

それでは、質疑のほうに移らさせていただきたいと思えます。各委員から質問させていただきますので、お答えをお願いします。

それでは、御自由に。

●●さん、どうぞ。

○●●委員 前回、協議のときに質問がこちらの委員のほうで出ていたので。外国籍の方とか多文化交流というのを書かれていたのですけれども、今回、効果というのはありませんか。

○●● 現在、スリランカの方ですとか中国の方ですとか、親子さんだったり、ボランティアとして参加してくださっております、交流が深められているかなというふうに感じています。

○●● あとは付け加えて、クリスマス会の際に、スリランカの方のママさんが自分たちの国のケーキを作ってきて、クリスマス会でみんなで珍しいものをおいしく頂きました。

○委員長 ちなみに、どんなケーキなのですか。気になっちゃって。

○●● バタークリームでとってもビッグな四角いケーキで、みんなで切って頂きました。そのママさんはお菓子づくりが大好きということで、コロナが落ち着いたら、ワクワクひろばの子供たちと一緒に、向こうの国のお菓子を教わりたくて私達も思っています。

○委員長 いいですね。ほかにあるでしょうか。

○●●委員 資料の中に、補助事業終了後には民間の補助金を活用したいのだという書

き込みがあるのですけれども、具体的にどんな補助金を活用する予定なのか、そういう見込みがあれば教えていただければありがたいと思います。

以上です。

○●● 来年度以降につきましては、千葉県社会福祉協議会さんの補助金ですとか、民間のカゴメさんだったか、補助金、子ども食堂対象などの補助金を実施されているようですので、そういったものをまた調べて申請をしていければと思っております。

○委員長 ありがとうございます。私からも言わせていただくと、子ども食堂系はいっぱい助成金ありますので、ぜひぜひチャレンジしていただければなと思います。

お二人、いかがでしょうか。

では、●●さん、どうぞ。

○●●委員 これは質問じゃなくて私の感想なのですけれども。この間、ある方からこの5月のチラシというか、これを手に入れて、当日、私は行かなかったんですけれども、こういうふうにして作って配布して努力されているということは、身をもって感じました。感想です。

○委員長 素晴らしい感想だと。

○●● ありがとうございます。

○●●委員 こういうチラシ。

○委員長 これは、ポスティングされたのですか。

○●● 市内の公民館ですとか児童館、子育て支援センターなどに置いていただいて、そちらを御覧になって申込みをいただいているような状況です。

○委員長 地道な活動ですね。本当に頭が下がります。

●●さん。

○●●委員 特に質問はなくて、大変素晴らしい活動だなというふうに私なんかも受け止めていまして、むしろ私がやりたいなとか、参加したいなというふうに思っていますので。

○●● お待ちしています。ぜひぜひ。

○●●委員 ぜひ頑張ってくださいと思いますので。多方面にわたっての連携とか多文化共生とか、それから地域に根ざした、なりわいの振興にもつながっていくものだと思うのです。民間の助成金も大事だと思いますし、かつ自己財源みたいなものも自分たちの地域資源で作っていくということができるよう、そんな可能性もある事業かなと思っています。

私もぜひ、勉強させてもらいながら一緒に遊びたいなと、参加したいなというふうに、そんな気持ちを持っております。

以上です。

○委員長 何か今後の意気込みなんかを言っていただければいいかなと思いますけれど

も。時間まだあるんです。

○●● 今年度も昨年度と同様に、事業を地道に続けていければと思っています。参加してくださる皆さんの笑顔が本当に励みになっておりまして、私たちも本当に楽しく過ごさせていただいている状況です。

○●● あとは、またコロナ禍が落ち着きましたら、ふるさとまつりとかそういうイベントに、私たちが作った、例えばサツマイモを加工したお菓子なども販売していければいいなと思います。

○委員長 ありがとうございます。

時間もせっかく余っているので、私から1点。前回のときのプレゼンでも、参加人数が比較的、先ほどもジャガイモ植えたりとか、しょうがないと思うのですけれども、どうしても子供たちって植えるときはあまり来ないのだけれども、収穫のときはいっぱい来るといいた話があったような気がするのですけれども。やっぱりそれは難しいのですかね。なかなか植えるところにも子供たちが参加するというのは、何か工夫とかされたりしていますか。

○●● どちらかという、収穫のときがやはり人数が多くて、植える作業のときは少ないということから、植える作業と収穫とダブルでできるように、作物の収穫時期と植える時期を合わせるように考えて、今年度はやっぴいこうかなと思っています。

先日も、サツマイモ植えとタマネギとニンニクの収穫ということで、植える作業と収穫をダブルで実施したところ。ただ、ちょっとお天気が悪かったので、人数は少なかったかなと思います。

○委員長 素晴らしいです。そのうちプロ農家で、農業で農家デビューできそうな感じになってきますよね。私も実は家庭菜園やっているので。

どうぞ、最後に。

○●●委員 今、委員長が発言されたように、貸農園でやっている。私の住んでいる桜台にも結構、貸農園あるのです。

ここに多世代型とありますから、子供だけにとらわれず、今後もし拡充されるのであれば、貸農園をやっているおじさんたち、私の世代なんかは大体そうなのです。そういうふうに、これから輪を広げることを視野に入れていただければ大変うれしく思います。

○委員長 このコメントで最後で。

○●● 参考にさせていただいて、本当に多世代交流が広く実施していけるように努めていきたいと思っています。ありがとうございます。

○委員長 それでは、お時間となりましたので、以上で終わらせていただきます。お忙しいところ、御参加ありがとうございました。

○事務局 それでは、4番目は、白井健康元気村の高齢者の健康寿命・元気寿命延伸のた

めの教室の開催及び広報の実施事業について御発表をいただきます。本日の御出席は●●さん、●●さんです。

○●● まず、白井健康元気村の活動について説明をさせていただきます。人生100年時代の到来。この時代をいかに生きるか。生活の選択肢が多くなった退職後の人生こそ大切と考え、単に介護不要の長寿寿命の健康寿命の維持だけでなく、積極的に社会との関わりを求め、気力と生きがいと満ちた元気寿命の維持にも努め、はつらつとした日常を送りたい。

WHOの健康定義にある体健康、心健康、家庭健康、社会健康をバランスよく維持し、できればピンピンコロリを求め、スマートにあの世を目指そうとする活動であります。

まず、体健康のために健康教室を開催し、体力維持増進、早期治癒等に必要な健康管理能力の啓発に努めます。心健康のためにレクリエーション、児童公園清掃作業、旅行等を企画し、生きがいと共生心の涵養に努めます。家庭健康のために終活教室を開催し、資産管理、遺産相続等の知識を習得し、ついへの生活計画能力の啓発に努めます。最後に、社会健康のため冊子の発行、ブログの発信により本活動の理念を広く市民に広報し、多数の市民の参加を得るようにしております。

さて、基礎的活動となる健康教室、終活教室の充実を図るためには、適切な講師への依頼が肝要です。また、多数の市民の参加を募るには、適切な会場の設定が必要である。その費用の支援援助をお願いするものであります。

昨年度は、活動発展型補助金を頂き、また、一昨年度から実施いたしておりました市の児童公園の清掃作業にも、昨年は6か所に増加させていただき、多くの自己資金を得ることができ、赤字なしの活動ができました。

なお、年度当初は、新型コロナのまん延のために中止せざるを得ない時期がありました。今年度は制限なしとのことですので、市民の皆様から好評を得た健康教室、終活教室をさらに充実するとともに、白井健康元気村の理念も広く広報し、多数の方の参加を得るために冊子の発行、ブログの発信等にも充実いたしたく、引き続き活動発展型補助金をお願いいたします。

この援助は、白井市の行政にとっても必ずや好結果をもたらすものとなって、戻って来るものと信じております。よろしく御支援のほどお願いします。

昨年度の活動状況を紹介させていただきます。

○●● これは、薬の講演です。これは、口内の健康ということで。これ、ロコモですね。歯医者さんの。あとは清掃活動、こんな感じで農園とパークの。これです。よろしくお願いいたします。

○●● 以上でございます。

○委員長 時間ぴったりで、ありがとうございました。

この後は、質疑させていただきます。よろしくお願いします。

では、委員の方からお願いいたします。いかがですか。

●●さん、どうぞ。

○●●委員 確認なのですが、予算の中に補助対象経費と補助対象外の経費があって、補助対象外のところに、今おっしゃったブログの管理費ですとか、事務用品ですとか、新聞の広告料ですとか、この事業を行うためには必要不可欠な事業だと思っているのですが、これを対象外にした理由をお聞かせいただきたいということと。

逆に、歳出の中に、児童公園の清掃をやっていただいていますよね。その経費は一切入っていないのですが、その経費はどこから出しているのでしょうか。その確認をお願いしたいと思います。

○●● その経費は、大体自己経費が、児童公園が33万、それから村民税として、村民が三十五、六人おりますので、それを入れて3万5,000円。37万ぐらいが自己経費、それで、そのお金を足りない分は回しております。

それから、先ほど言われましたブログの管理これは6万とかいろいろかかっているのですが、去年の御指導により、それは入れないでくださいと言われましたので、DVDを作る、何も作ると言っていたのですが、この事業としては、健康元気村全部の事業ではなくて、我々は対象としているのは、健康教室と終活教室を対象に補助金をくださいと、こういうふうに言っております。

○委員長 今回は出てしまっているのですが、しょうがないと思うのですけれども。健康元気村の終活教室だけの申請であれば、無理して、この補助対象外経費を今回の補助金の申請に入れていただく必要はないというのが、ある意味でアドバイスとしてのお答えになりますので、次年度以降、申請することがあれば、そうしていただけると助かります。

○●● 非常に助かるのです。ブログは。

○委員長 ちょっと待って。ほかに質問したい方もいるので。ほかの方、いかがですか。よろしいですか。

私のほうからは単純な確認なのですが、収支予算計画書の印刷製本費なのですが、小冊子制作費が200掛ける500掛ける8回で8万円という計算になっているのですが、これ単純に計算すると80万になるのですが、その下のポスターの制作費も微妙に違ったりとかするので。これ、どういう計算になりますか。

○●● 80。小冊子。

○委員長 単価200円のを500部作るのか、それとも、200人に対して500部作るのかとか、そこら辺が分からなかったもので。

○●● それ、間違っているのでは、ミスでしょう。

○委員長 口頭で言っただけであれば大丈夫ですけれども。

○●● 申し訳ありません。何かミスプリをやっておるようです。50円です、一つ。

○委員長 50人が正しいのですね。200円が単価ですか。

○●● 500円もしないでしょ、小冊子。

○●● 500円もしていない。

○●● そんなのは作りません。小冊子というのは、事前に講師の先生にお願いして、その代わり、作り代を1万円出しますということでやって、それを分かるように書き込まれているし、どういう話があったかって分かるようにする、これぐらいの小冊子ですから。

○委員長 そういうものなのでしょうね。

○●● 単位が書いていない。200と500の単位が。

○委員長 50円なのかな。50人なのかな。いずれにせよ、分かりました。

○●● 申し訳ありません。82歳と84歳がやっておるものですから。

○委員長 ただこれ、税金の補助金なので、そこら辺は細かいですけれども。御理解いただければと思います。

ほかの方、いかがですか。

●●さん、どうぞ。

○●●委員 大変熱意ある学習活動を行うというようなことで受け止めさせてもらいました。高齢者の方の自主的な学びの場を設定していくということが主眼だと思うのですが、若者層の事務能力が不足することで、今、やはりまさにこの申請書類に見られるようなこういったいろいろなミスプリといったことも出てきまいますので、ぜひ若い世代との連携だとか、この教室を動かしていくときに、そういった若い層とつながって取り組んでいくということも大事なのではないかなというふうに思っておりますが、いかがでしょうか。

○●● まさにそれです。

○●●委員 その辺りで何かご努力とか工夫とかあればお教えてください。

○●● なかなか若い人は、暇なじいちゃん、ばあちゃんの相手してくれないのですよ。もう僕らも引退しないと、85と82でいつまでできるのかと。村長と、村長代わり、若い人いないかなって、一生懸命探している状況です。

これ、恐らく若い人がやってくれなかったら、二、三年で没になると思います。

○●●委員 その辺では、やはり市とか、ほかの対外的な部分の支援とか連携というものも求められてくるのではないかというふうにちょっと思いました。市当局とも連携ができればいいのじゃないかなと。

○●● ありがとうございます。一生懸命努力したいと思います。

○委員長 ありがとうございます。

お二人、どちらか、ある方いれば。大丈夫ですか。

●●さんはいかがですか。

○●●委員 この児童公園清掃で年間33万円、収入を上げていますけれども。これ、大変

いいと思うのですけれども。これをボランティアの人でやるには、継続性が大事だと思うのです。どのくらいの人たちが、どうやってやってくれるのか。ボランティアといっても、少しは粗品程度はあげなきゃいけないし。これを続けないと、収入の基盤が絶えてしまうと。それを今後の長期継続するためにも考えて、どういう考えでされているのかと思いました。

○委員長 これ最後で、お答えをお願いします。どうぞ、鳴ったけれども大丈夫です、お答えいただけます。

○●● 今は、みんなで一つの公園、五つの公園やっておるのですが、児童公園で。一生懸命やって、時には落ち葉が30袋以上になることもあります。片や、義足の人もやっというような状況で今、頑張ってる。今は何とかできていますけれども、二人ほども来られないというような人が出てきまして。これも若い人に入っていてやっていかないと、もたないと。都市計画課は続けてくださいね、続けてくださいねって言ったりします。

○委員長 よろしいですか。そうしましたら、お時間となりましたので、以上で終わらせていただきます。どうもお忙しいところ、御参加ありがとうございました。

○●● どうもありがとうございました。

○事務局 それでは、本日最後に5番目は、特定非営利活動法人 s k e t c h 倶楽部さんの食未来まちづくりプロジェクト事業について御発表をいただきます。本日の御出席は、●●さん、●●さん、●●さんの3名の御出席をいただいております。

○s k e t c h 倶楽部 それでは、NPO法人 s k e t c h 倶楽部でございます。今回は事業説明の機会を頂きまして、皆様、誠にありがとうございます。本日は、審査基準の6項目を中心に説明させていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、スライド1枚よろしいですか。当団体の食未来まちづくりプロジェクトですが、白井市の基幹産業の農業にスポットを当てて、食や農に関心のある多様な人々の交流を通じて相互につながり、地域コミュニティーの醸成を図り、地域活性化を促進する交流型事業でございます。農家さん、飲食店さん、それから白井市に、ほかにも食品加工業者さんであるとか、料理研究家さんなど、食と農に関連する人たちがこの事業に関わっております。次のスライドをお願いします。

例えば、農家さんは、白井の畑で作った野菜を地元の人に食べてほしいというニーズがございます。白井市民は、地元の新鮮な野菜を購入したいというニーズがございます。当団体は、それぞれのニーズに応えることを目指しております。次、お願いします。

それでは、審査基準の一つの必要性でございます。スライドを御参照ください。農家さんや飲食店さんの悩みや課題、あるいは商売情報。一方で、白井市民のニーズや知りたいことを相互共有する場づくりを行い、人と人をつなぐことで地域コミュニティーの共存



による地域活性化を図るというところでございます。次、お願いします。

2は公共性です。こちら当団体が重要視しているところであります。農家さん、飲食店さん、それから消費者、白井市民さんです。それぞれがつながることにより派生する連携を通じての地域への愛情心の醸成、また経済発展、これらを大事に考えております。多くの市民や地域に利益をもたらす事業と認識しております。次、お願いします。

3つ目が実現性ですが、既に昨年2回実施しております。今年度も既に6月と11月に開催をするということになっております。次、お願いします。

4つ目、自立性でございますが、昨年2回の実施にかかる費用は、全て当団体のほうで100%を負担して実施をしております。白井市内の農家さんや飲食店さん、そして市民のための活動でもありますので、市民団体活動支援補助金の対象になれば幸甚でございます。御審査のほど、よろしく願いいたします。次、お願いします。

5つ目が自発性です。より多くの市民の方に参加いただけるよう、白井のまちづくりサポートセンターでの告知、それから白井の地域情報サイト、しろいまっちでの告知、当団体のFacebookでの告知、過去の参加者への声掛け等と、あらゆる手法で参加者を募っていきます。次、お願いします。

そして、6つ目が事業効果です。今回、私どものエントリーは活動促進型なのですが、当団体の活動としては、ここを重要視しております。この事業がなければつながることがなかった人たちがつながることにより、それぞれのニーズを満たしたり、課題解決を図るきっかけになると確信しております。日常的に関わることの少ない人たちとの交流は、新たな価値観や視点を得られる貴重な機会となります。参加する全ての人たちが幸せになる白井市民のための課題解決型事業と認識しております。次、お願いします。

こちらが昨年の参加者からの感想でございます。参加された皆さん、目を輝かせながら情報交換し、休憩中にはあちこちで新たな交流に向けた名刺交換が行われ、イベント終了後も皆さんなかなか帰らず、会場の外で白井市の食未来に向けた熱い意見交換が行われていました。

ジャンルの違う人たちが一つの共通のテーマによってつながって、新たな化学反応を起こすというのが、私たちの目的とするところでございます。次、お願いします。

今回の事業が白井市にもたらす効果でございますが、地域経済の活性化として、地産地消の促進、飲食から買い物による消費増加、フードロス削減などを挙げられます。またにぎわいの創出、交流人口の拡大、イノベーションの創出などで地域を元気にする効果もございます。次、お願いします。

最後に、今後の展望をお伝えします。記載の3点です。私たちは、これらにつなげていきたいと考えております。スライド次、お願いします。

以上でございますが、本事業は、もともと千葉県のアドバイザリー事業に。

○委員長 すみません、時間になったので。

○ s k e t c h 倶楽部 失礼しました。ありがとうございました。

○委員長 ありがとうございます。言い足りないことは、質疑の時間でフォローしていただければと思いますので。

それでは、委員のほうから質問させていただきます。いかがでしょうか。

●●さん、どうぞ。

○●●委員 確認を取らせてください。s k e t c h 倶楽部さんの定款がここにあるのですけれども、定款の中には、今御説明があった地産地消ですとか、農家の方への支援ですとか、そういったものが入っていないのですけれども。この定款と今説明があった事業は、同じものとして認識していいのかというやつが1点と。

今日は、せっかく理事長さんが見えていますので、理事長さんから、この事業に対しての決意等をお伺いできればありがたいと思います。よろしくお願いします。

○●● 私たち、定款には十分に盛り込めていない部分もございますが、地域の活性化、それから地域の共生社会の実現という二つの柱を掲げています。

地域の活性化というのは、多様な人々が交流する。そのことによって、それぞれがつながったり、先ほど化学反応という言葉が出てまいりましたけれども、私たちが当初想定していないことも後々発展してくるということをこの事業を通して実感として持っているものです。

ですので、共生社会というのも、いろいろな立場の方々に関わることで結果的にはみんな支え合っていく、創っていくというようなことを目指していますので。農業という、食ということで皆さんに共通の概念を提示しているわけですけれども、食未来ということで、誰しもの関わるテーマとして農業という切り口をちょっと表に出しているということになります。

ですので、私たちのビジョンは地域の活性化、それから共生社会の実現ということで、定款的にはそのようなことになるかと思えます。

○委員長 よろしいですか。ほかの方はいかがでしょうか。

では、●●さん、どうぞ。

○●●委員 法人格を取られた団体ということで、お疲れさまです。私から1点、法人の設立から、もう10年以上たっています。その中でこういった取組をされるということですが、具体的には2回の集まりみたいなものを行うというような事業内容だと思うのです。

これまでの10年間の経験や知見なんかの蓄積がやっぱりあるのかと思うのです。そのことの上で、今後どういうふうに展開していくのかという部分が、特に法人格を取られた団体の場合には、いろいろな、義務とまでは言いませんけれども、社会的使命が期待されているところもあるので、その点を意識することが大事かと思うのですが、今までの10年間にわたる活動蓄積の評価の部分と、それがこの事業を通じて、さらにどう展開するのかということのを端的に教えていただければと思います。その辺の団体の整理についてお教

えください。

○●● 続けて私から失礼いたします。設立は10年前なのですけれども、実はここ四、五年は休眠状態にあった法人を、事務所を柏市からこちらに移転をいたしまして新しく作り替えている法人ですので、s k e t c h 倶楽部、新生 s k e t c h 倶楽部としては、1年経過したというところです。

もともと介護保険などのまちづくり、地域共生を目指している団体ではありましたが、定款変更、事務所の変更等、登記を行いまして、新たに白井を拠点に鎌ヶ谷、それから印西、松戸、そういった辺りの人々を巻き込んで、このたび白井市で事業をやっていると。

この食未来というのは年2回ですが、そのほかに社会的処方ゲームで体験する会を2か月に1度やっておりますし、ひと・まちカフェという講演会ですね。なぜその方は地域に根ざして活動するのかというようなお話を伺う会など、コロナ禍ではありましたが、昨年1年を通して、大体月に1回ぐらい活動を続けてまいりました。

以上です。

○委員長 よろしいですか。ありがとうございます。

残りお二人はいかがですか。

●●さん、どうぞ。

○●●委員 食を通じて地域コミュニティーの醸成、地域活性化、これは大変いいことなのですけれども、なかなか人集めとか広報とか、大変だと思うのですけれども。

それぞれ地元、皆さん例えば理事長が四番街でお住まいで。四番街で既存の自治会があるわけです。それぞれの自治会と連携して人の面、それから広報の面、そういうふうな相互協力は、どういうふうにお考えですか。

○委員長 お願いします。

○●● 私たちも1年目ということもございましたし、この感染拡大という予測もつかない状況もございましたので、積極的に広報とかで情報を掲載するというよりは、人から人にアンテナを立てていらっしゃる方にお声掛けをして、当日来ていただくという手法でやってまいりました。

今後は、こういった趣旨に賛同していただけるコミュニティー、それから広く一般の方々に情報を提示して、共感していただける方々に多く参加していただけるようになっていけばいいなというふうには思っております。

○委員長 ありがとうございます。よろしいですか。ありますか。よろしいですか。

残り1分ぐらいですけれども。●●さんとかは、いいですか。

私のほうから1、2点。1点目はお願いで、令和3年度の活動予算報告書というのが添付で出ているのですけれども、正しくは、多分これ活動計算書なんじゃないかなと思うので、細かい点ですけれども、ちょっと修正していただければと思います。

あと昨年度、実はプロジェクトもやられているということで感想も発表されていまし

たけれども、若干私の印象ふわふわしちゃっているんで、何か具体的に、こういう参加者からエピソードが出たとか、ワークショップって良しあしはあると思うんです。別にワークショップが悪いというわけじゃなくて、イベントの普及啓発には大事だと思うんですけれども。

やっておしまい、何となく楽しかったで終わると、なかなかちょっときついものが。次につながっていかないんで、参加していただいた方から何か具体的なアクションが生まれたとか、小さなエピソードでもいいんで、何か把握しているものがあれば教えていただきたいんですけれども。

○●● その件に関しましては、私、●●のほうから御報告させていただきます。実際参加していただいた方に関しまして、私どもいろいろとお一人お一人どうでしたというようにお話をお聞きするケースもありまして、それをいろいろな媒体で、こういう活動をやって皆さん参加されて、こういう活動を持たれましたという印象をそれぞれ配信したりとかいったことも、SNS等々を通じまして発表させていただいています。

また次回、ぜひあったら教えてねというようなお話もその場であったりしましたので。そういったことが、これからどんどん具体的に、事前にこういうことがあるよ、事後としてこういうことで参加して、皆さんがこういうことを感じて次、こう続けましたといったような、最初のスタートから結論まで目に見えるような、文字として発信できればなというふうに考えております。

○委員長 それでは、ありがとうございました。お時間となりましたので、以上とさせていただきます。お忙しいところ御参加いただきましてありがとうございました。

○s k e t c h 倶楽部 どうもありがとうございました。

### (3) 補助金審査 [非公開]

(理由) 白井市情報公開条例第9条第1項第5号に該当するため。